

NPO 法人腎臓サポート協会
新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査

<アンケート調査の概要>

目的

- ・新型コロナウイルス感染症の流行による腎臓病患者の生活、診療への影響を把握する

実施方法・

- 実施期間： 2020 年 6 月 19 日～2020 年 6 月 30 日
- 調査対象： 2020 年 5 月末現在の腎臓サポート協会会員の内、メールアドレスの登録がある会員
- アンケート方法： WEB アンケート（メールにて告知の上、特設 WEB サイトにて回答）
- 有効回答数（重複回答、回答不備を除く）： 1,022 件

アンケート集計協力：株式会社日本能率協会総合研究所

<主な結果>

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う受診頻度の変化

- 医療機関の指示または相談の上、保存期（定期受診有）16.3%、在宅での透析 11.1%、移植者 31.5% で受診頻度が減少。保存期（定期受診有）ではさらに 5.4%が自己判断で受診を減らしていた。

新型コロナウイルスの流行での生活・体調・気持ちの変化

- 約 3 割が、「気力」「体力」の減少を感じていた。

新型コロナウイルス感染症の流行で、腎臓病の治療に関して不安に思うこと

- 88%が「自分が感染したら非常に重篤になるのではないかと不安」と感じており最大の不安となっている。

不安に対し役立つ支援

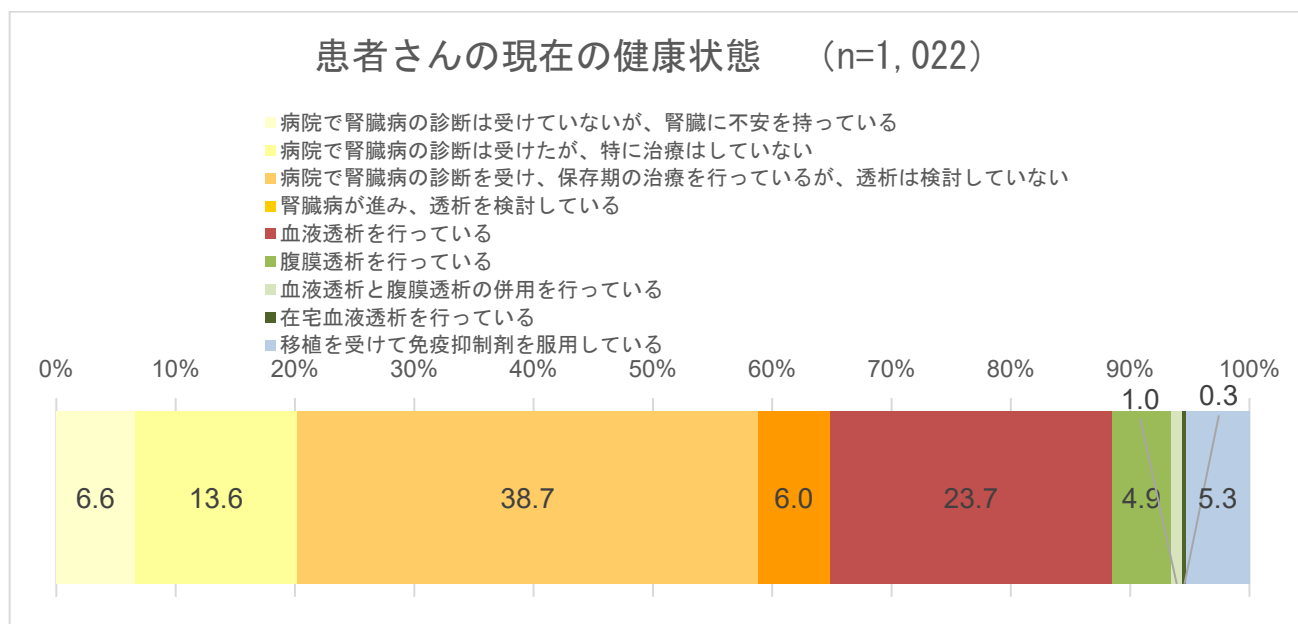
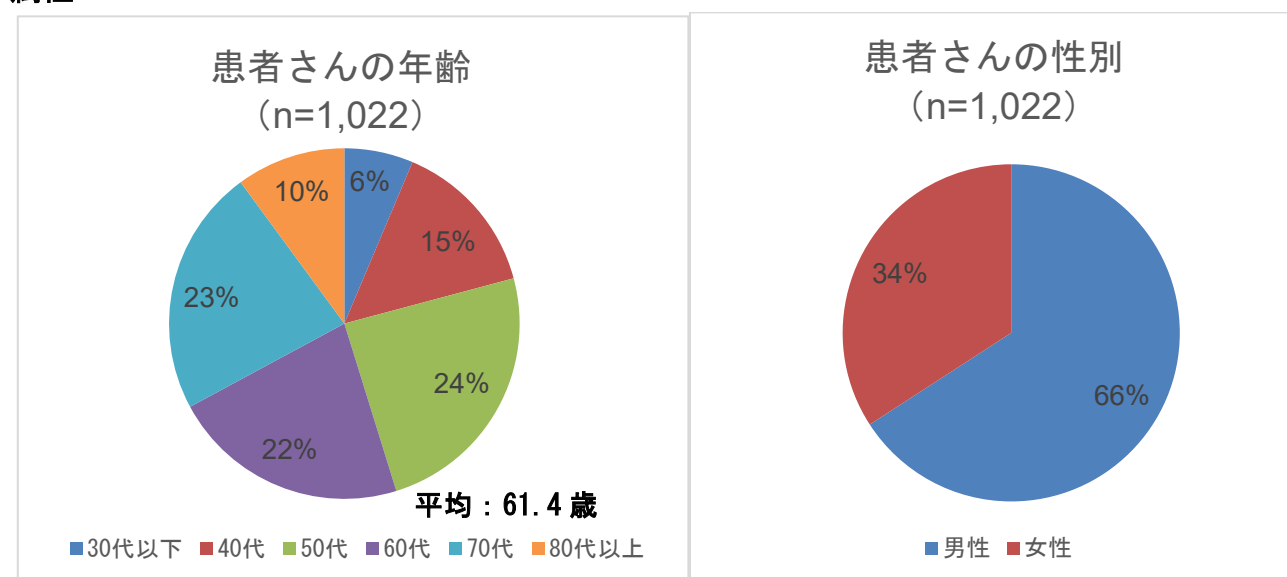
- 「緊急時にすぐに受診できる病院があること」が突出して多かった。次いで「対面の診察を受けなくても遠隔医療を使って主治医が自分の状態を把握してくれていること」、「電話やメール等で、医療従事者に相談ができること」など、遠隔診療への期待も高い。

保存期の患者が、透析や移植が必要となった時、治療を決める際に重要と思われること

- 「仕事や趣味など、今の日常生活が続けられる」が最も多く、「生存率などの治療成績」を大きく上回る結果となった。

【アンケート結果】

属性

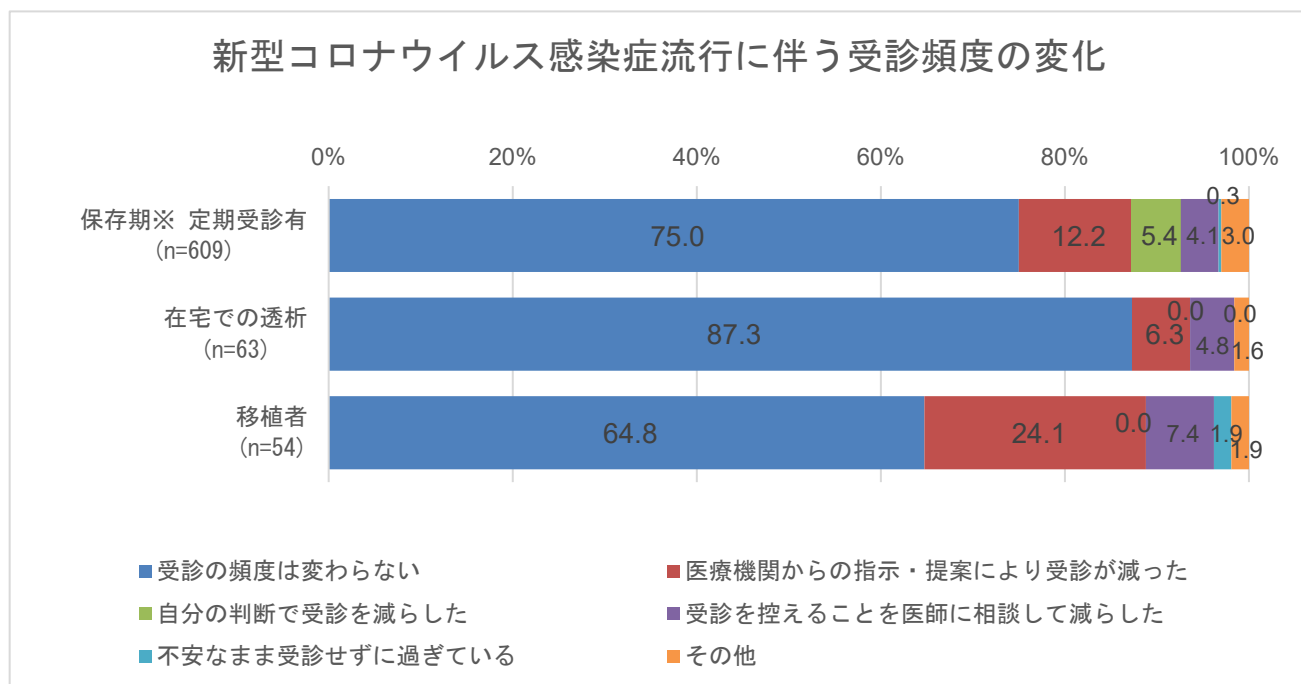


■患者さんの状態によって、上記を以下の区分で集計■

	件数	%	
病院で腎臓病の診断は受けていないが、腎臓に不安を持っている	67	6.6	保存期
病院で腎臓病の診断は受けたが、特に治療はしていない	139	13.6	
病院で腎臓病の診断を受け、保存期の治療を行っているが、透析は検討していない	396	38.7	
腎臓病が進み、透析を検討している	61	6.0	血液透析
血液透析を行っている	242	23.7	
腹膜透析を行っている	50	4.9	在宅での透析
血液透析と腹膜透析の併用を行っている	10	1.0	
在宅血液透析を行っている	3	0.3	移植
移植を受けて免疫抑制剤を服用している	54	5.3	

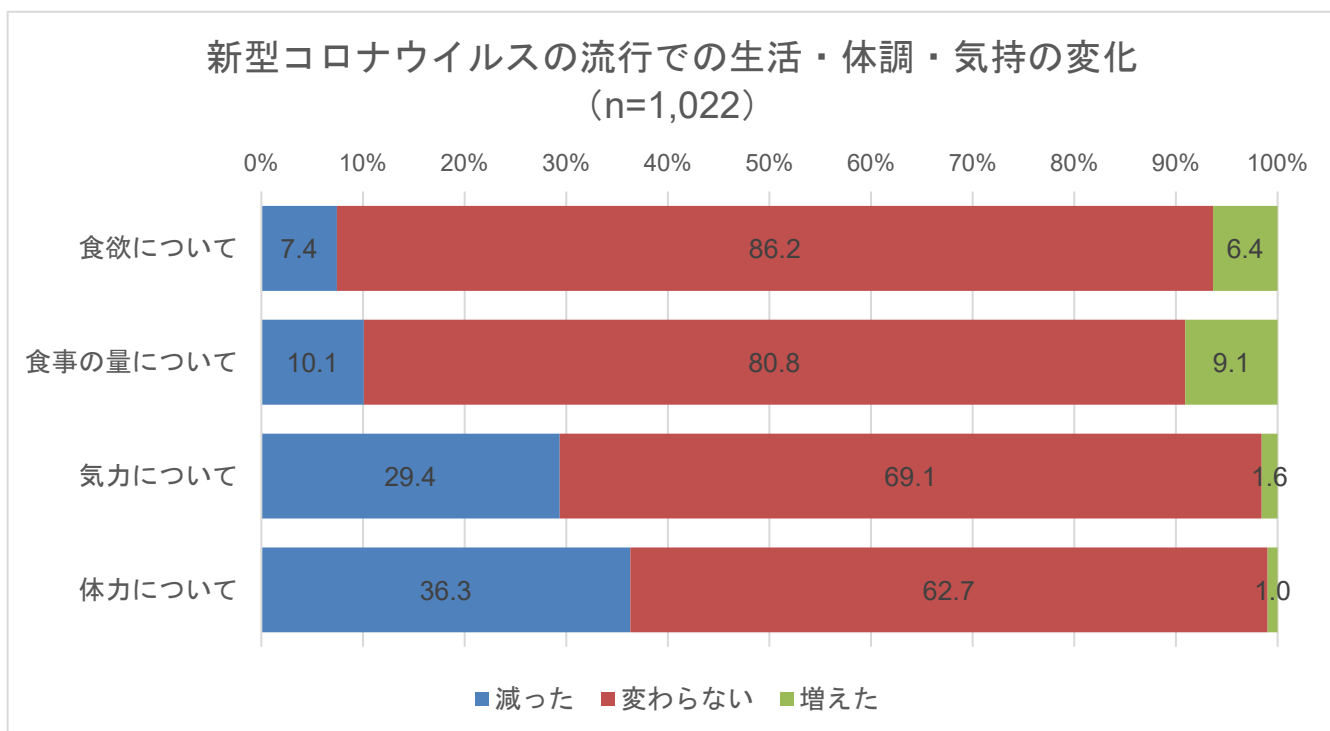
新型コロナウイルス感染症の流行に伴う受診頻度の変化

- 医療機関の指示または相談の上、保存期（定期受診有）16.3%、在宅での透析 11.1%、移植者 31.5% で受診頻度が減少
- 保存期（定期受診有）ではさらに 5.4%が自己判断で受診を減らしていた



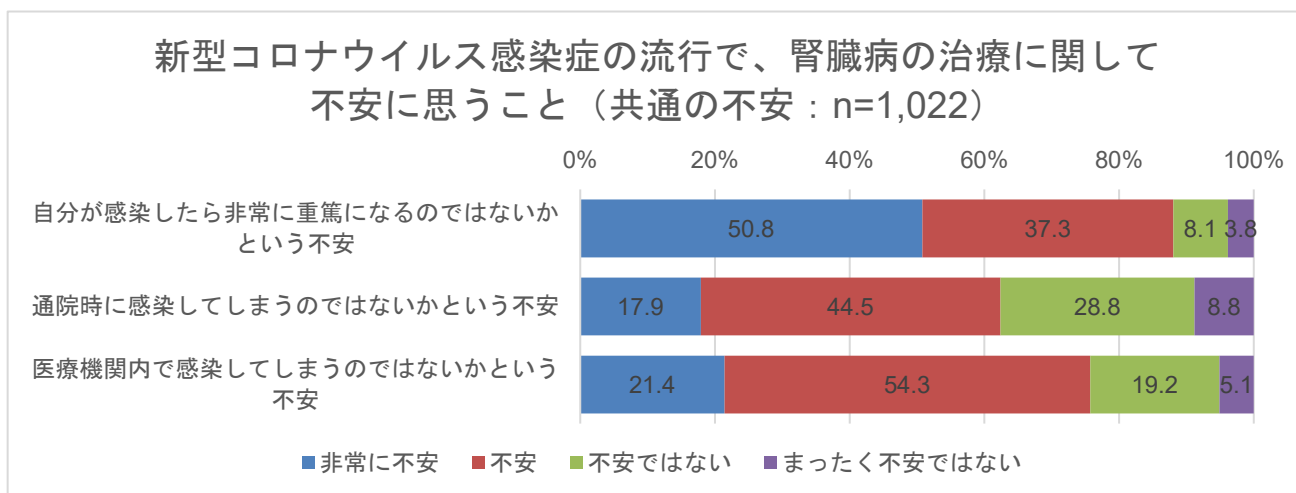
新型コロナウイルスの流行で、生活・体調・気持ちに変化はありましたか

- 食欲や食事の量は「増えた」と「減った」が同程度見られたが、気力および体力については「減った」が多く、それぞれ 3 割程度が「減った」と回答 (29.4%、36.3%)



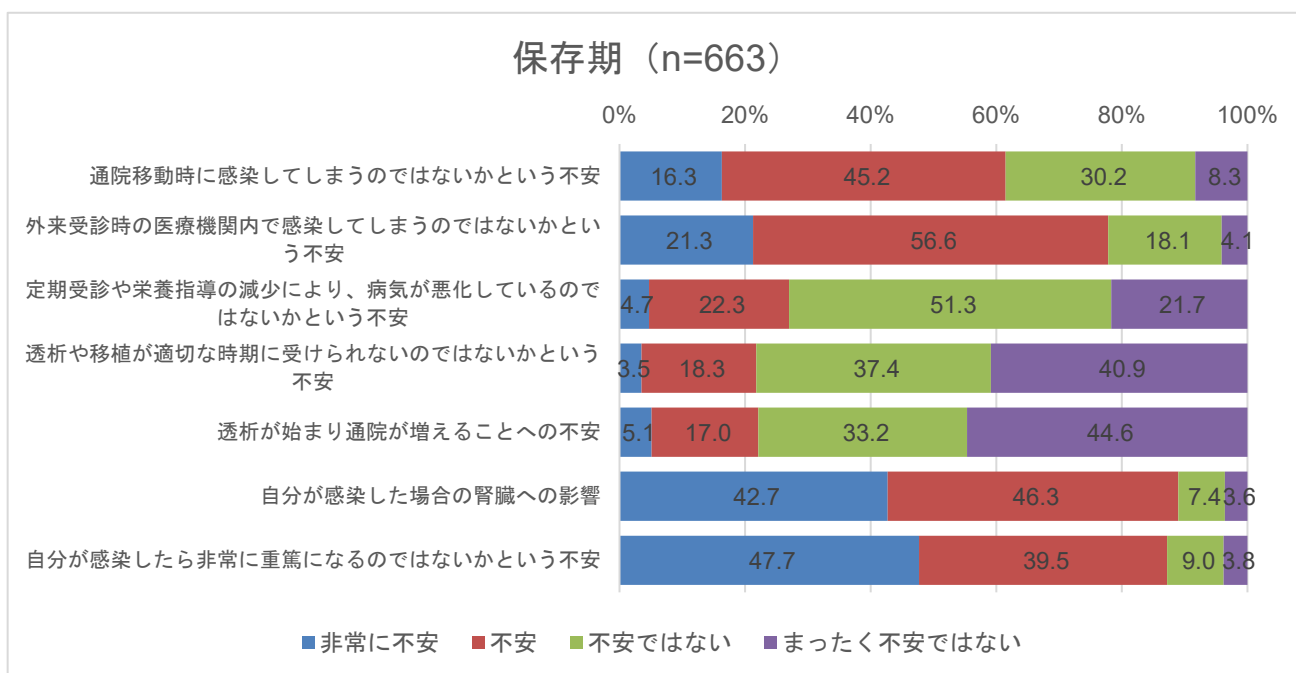
新型コロナウイルス感染症の流行で、腎臓病の治療に関して不安に思うこと

- 88%が「自分が感染したら非常に重篤になるのではないかと不安」を感じており最大の不安となっている（「非常に不安」＋「不安」の合計）
- 通院時や医療機関内での感染への不安も共通の不安となっている
- 血液透析では自分自身の感染と治療継続の不安と共に、医療機関内で感染がおきた場合の治療継続に対する不安も大きい
- 移植者では「自分が感染した時に移植腎に与える影響」への不安が大きく、これは保存期患者が自分の腎臓に与える影響よりさらに不安が大きい結果となった

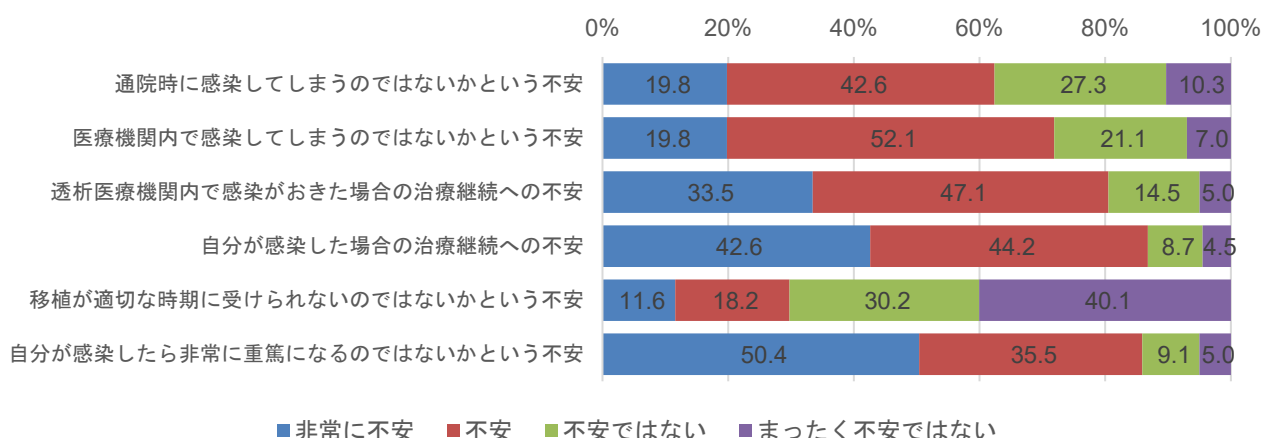


新型コロナウイルス感染症の流行で、腎臓病の治療に関して不安に思うこと

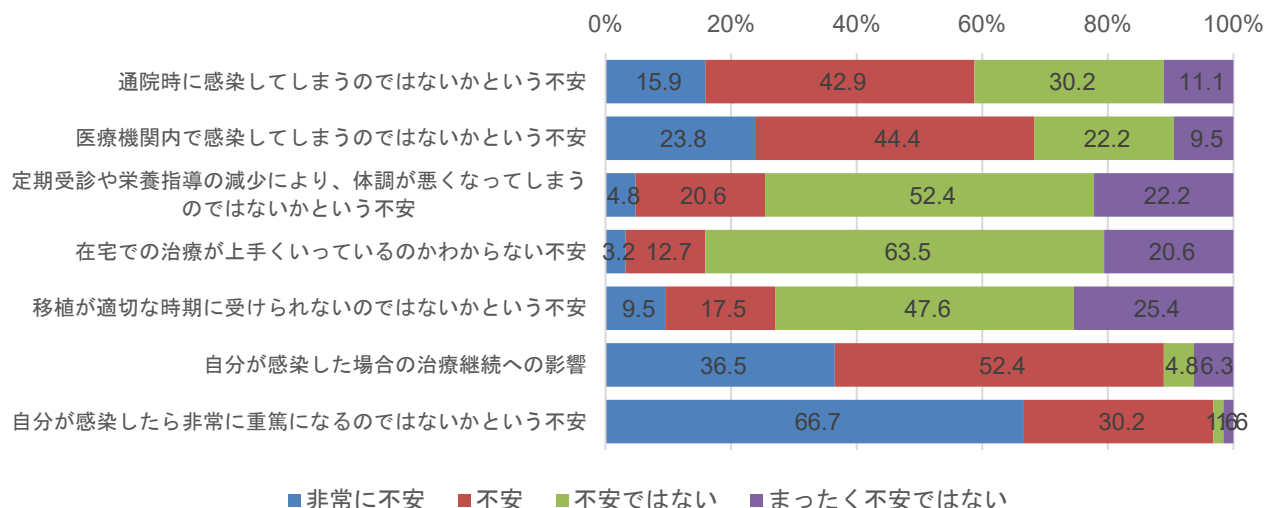
【患者さんの状態別】



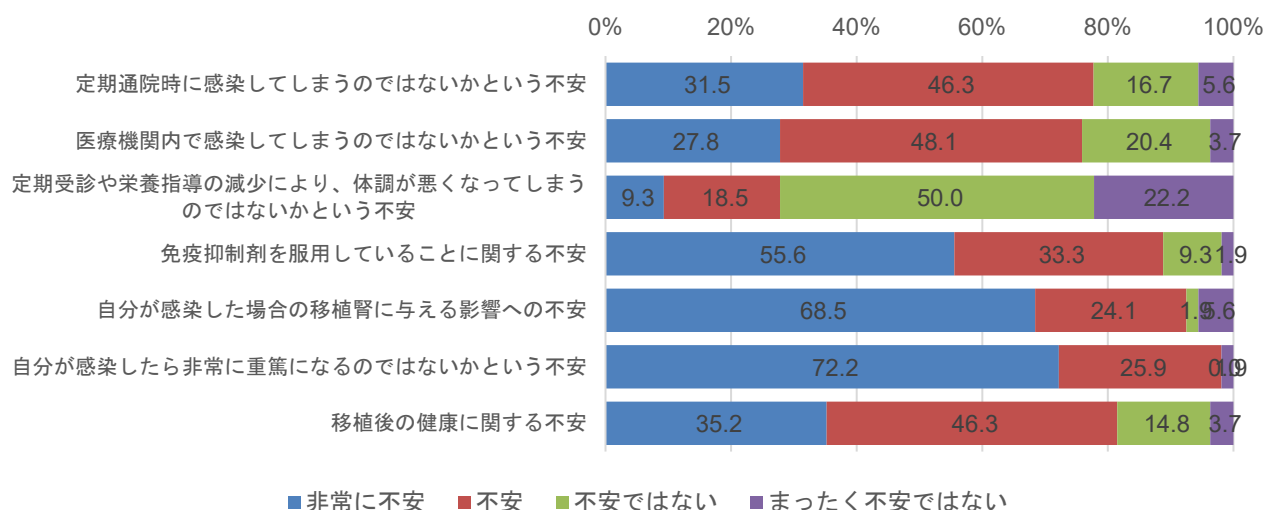
血液透析（n=242）



在宅での透析（腹膜透析・腹膜透析/血液透析併用・在宅血液透析）（n=63）



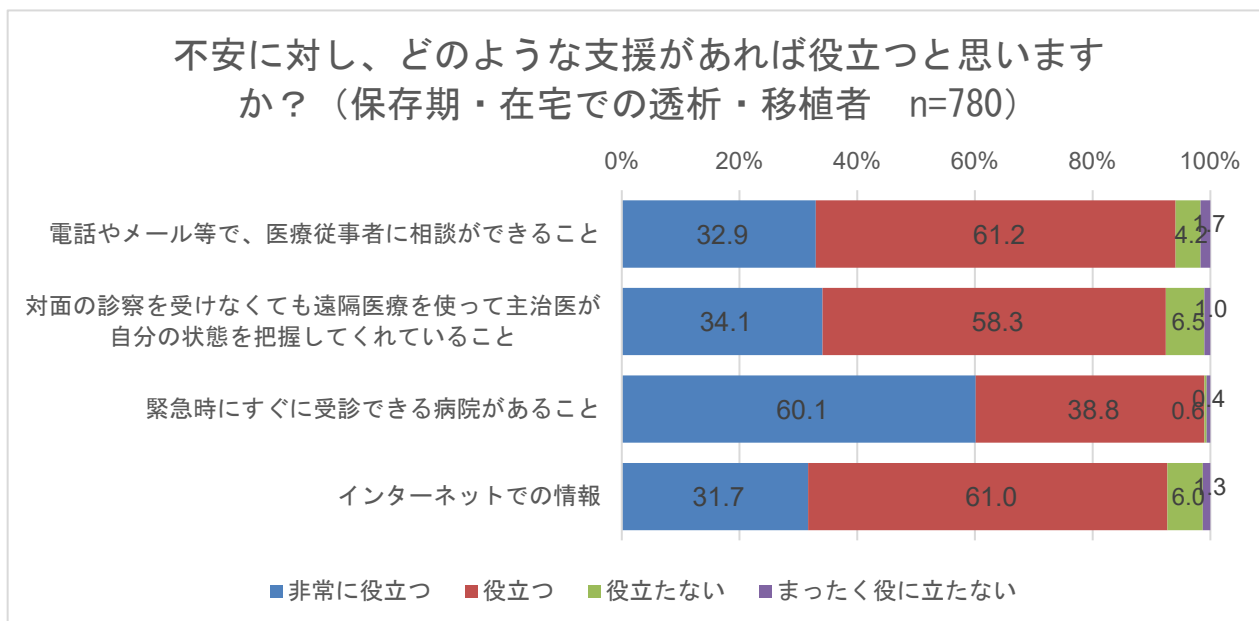
移植者（n=54）



不安に対し、どのような支援があれば役立つと思いますか？

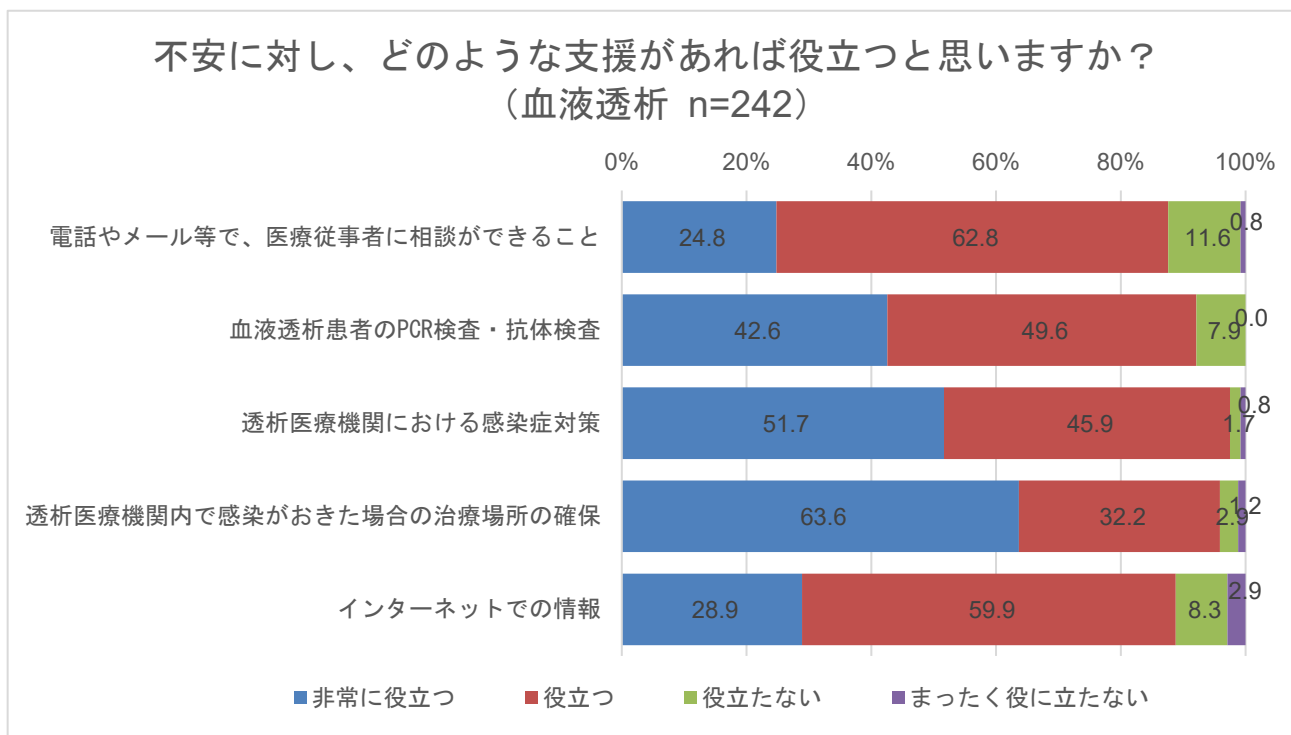
【保存期・在宅での透析・移植者】

- 「緊急時にすぐに受診できる病院があること」が 60.1% で突出して多かった
- 次いで「対面の診察を受けなくても遠隔医療を使って主治医が自分の状態を把握してくれていること」34.1% や、「電話やメール等で、医療従事者に相談ができること」32.9% など、遠隔診療への期待も高い



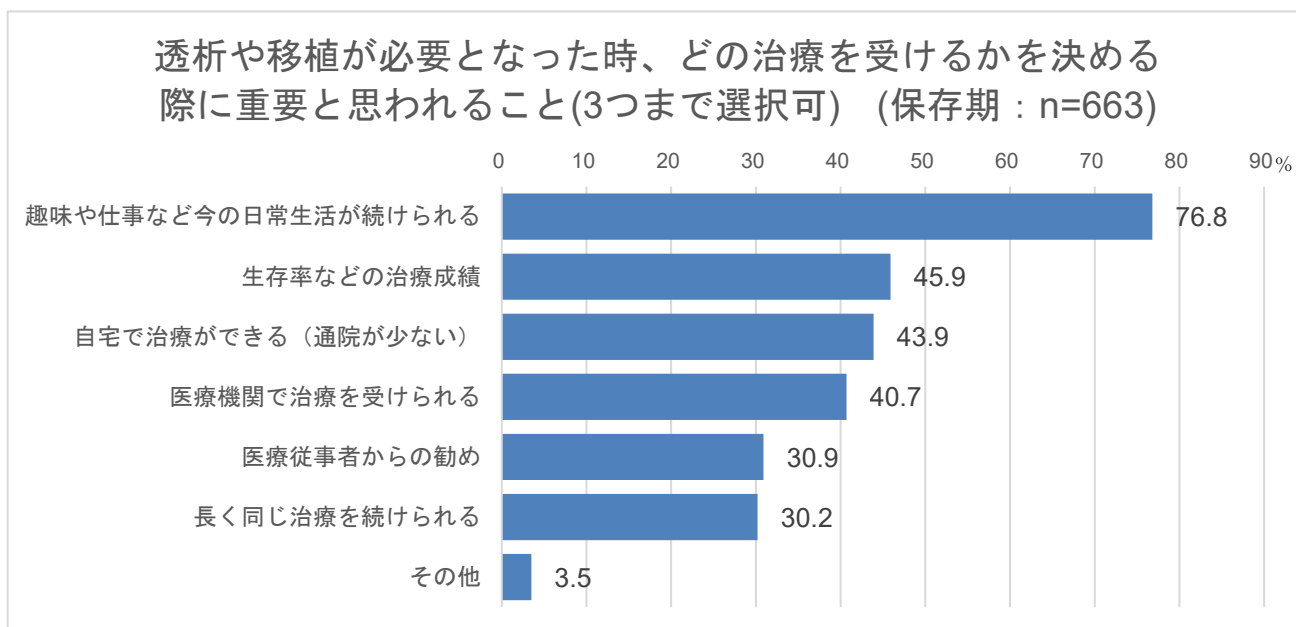
【血液透析】

- 血液透析患者では、「透析医療機関内で感染がおきた場合の治療場所の確保」が最も多かった。



もし、透析や移植が必要となった時、どの治療を受けるかを決める際に重要と思われること(「保存期」)

- 76.8%が「趣味や仕事など、今の日常生活が続けられる」ことを選択
- 次いで生存率などの治療成績 45.9%、自宅で治療ができる(通院が少ない)43.9%、医療機関で治療を受けられる 40.7% であった



<まとめ>

新型コロナウイルス感染症に関して、腎臓病患者にとって最大の不安は「自分が感染したら重篤になるのではないか」であり、一部の保存期患者では自己判断で受診を控えた行動も見られました。不安を解消するための支援としては、緊急時にすぐに受診できる医療機関が求められ、遠隔医療への期待もうかがえました。また、保存期患者が透析や移植が必要となった時には、「今の日常生活が続けられる」ことが重要と考えていることも確認できました。

基礎疾患を持つ腎臓病患者にとって、新型コロナウイルスへの感染予防が重要であると共に、慢性腎臓病を悪化させないために、主治医と相談し治療を継続することもとても大切です。正しい知識をもって治療を続け、万が一、透析や移植が必要になった際には、自分の生活を考えた治療を選択できるよう、腎臓サポート協会では「腎臓病なんでもサイト」や「そらまめ通信」を通じた情報提供を続けて参ります。